

テクノス通信 VOL. 18 Nov.2010



「現場の工夫いろいろ！」

離床センサーなどを含む物的対策、人的対策など、転倒・転落対策には様々なものがあり、病院・施設様ではそれぞれに工夫されていることと思います。今回はこれまでリスクマネージャーインタビューでお応え頂いた内容などを元に、『現場工夫いろいろ』を総集編にご紹介します。ぜひご参考になさってください！



物的対策・工夫

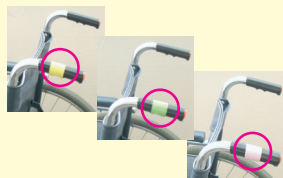
- 危険度の高い患者様のネームプレートにシールを貼り、院内全体で危険度を確認できるようにしている。
(宮崎県立日南病院様他)



- 段差や坂など転倒危険の可能性のある箇所はポスターやテープで注意喚起を促す。(国立病院機構福井病院様他)



- 介助量がわかるように車イスのグリップ部に色別介助シール(トイレ介助・医療介助・そばで見守り介助等)を貼り付け、院内全体で確認できるようにしている。
(別府リハビリテーションセンター様)



- 院内の危険箇所 MAP やリーフレットを作成し、危険性を予め確認してもらう。
(広島大学病院様他)



人的対策・工夫

- 『転倒・転落対策チーム』を多部署構成に
薬剤師や精神科のドクター・理学療法士に入ってもらうことで、薬による影響、精神科の特殊な環境やリハビリによる危険性を考慮した対策や看護計画を立てることができる。客観的な指摘を得られ、看護計画がより有効なものになると同時に、部門間の協力が密となり、院内全体を巻き込んでの対策が可能になる。(産業医科大学病院様他)
- 『支援回診チーム』で院内の風通しをよくする
回診メンバーが副院長、統括診療部長、副看護部長などとペアで週1回回診することで、現場課題を早い段階で吸い上げ院内の風通しを良くし、情報伝達がスムーズになるようにしている。また、患者様がドクターには言いづらいこと等も伺い、病院・患者間のメディエーター的な役割も果たしている。(福岡東医療センター様)
- 『病院独自のマニュアル』作成で定期的な改善点チェックと統一した対応を
アセスメントスコアシートの記入方法、転倒・転落事故が起きた際の対応フローチャート等を作成することで、統一した対応ができるようにしている。また、スタッフに対し重要項目について定期的にチェックすることで、改善点を見つけ出す。(関西電力病院様他)



情報共有など

- 電子化で報告がスピーディーに
「電子インシデントレポートシステム」を導入したことで、報告がリアルタイムとなり、報告・フィードバック共に迅速にできるようになった。また、紙の報告よりも手間が少ないため、現場からの報告件数が増えることにもなった。加えて、院内の連携強化、安全意識の向上に役立っている。(日本大学医学部付属練馬光が丘病院様他)
- テレビ放送で情報共有をスムーズに
職員 2,000 名と大規模な病院のため、全職員へ向けた TV 放送があり、院内会議で決定した事の連絡、院内行事や講演などの情報共有を行っている。(北里大学病院様)
- 院内新聞やカレンダーで情報を確認
インシデント事例、転倒・転落対策、医療安全に関する情報を定期的に配信している。(産業医科大学病院様他)
- 安全管理スタッフにはワッペン
安全管理に関わるスタッフには誰が見ても分かるように専用のワッペンをつけてもらい、またそのことで、安全管理者自身に責任と自覚を持ってもらうようにしている。(東邦大学医療センター佐倉病院様)